

望ましい人間関係を育むために

～コミュニケーションに関するアンケート結果から見てきたこと～

栃木県総合教育センターでは、生徒の望ましい人間関係を育むための働きかけの方向性を探るために、県内の高等学校1年生約400人を抽出し、「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート」を行いました。本調査研究では、本県の高校生の人間関係及び人間関係づくりに関する意識や行動を把握し、望ましい人間関係を育むための働きかけについて考察しました。また、平成19年度に実施した調査との比較も行いました。このリーフレットでは、考察した働きかけの具体的な取組例を中心に紹介します。

次のような働きかけが大切です

ホームルーム担任・副担任、養護教諭、生徒指導主事、教育相談係、生徒会担当教員、部活動指導者、管理職等それぞれの立場から、生徒の実態に応じて次のような働きかけをするための具体的な取組を考え、実践することが大切です。

相手の話を聞く
ことの大切さを
実感させる

感謝の気持ちを
表現させる

異年齢集団に
よる交流の場面
を設定する

○調査の概要

- ◆調査の名称：子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート
- ◆対象者：県内の高等学校1年生から抽出
- ◆回答人数：385人
- ◆質問構成：望ましい人間関係を構築している状況に関する質問（17問）
他者との関わりに関する質問（30問）
- ◆調査時期：平成29年6月中旬～下旬
- ◆調査方法：質問紙調査

○分析について

他者との関わりに関する質問（30問）

相関を分析し、やや強い相関*が見られた「他者との関わりに関する質問」の内容から、働きかけの方向性を探りました。

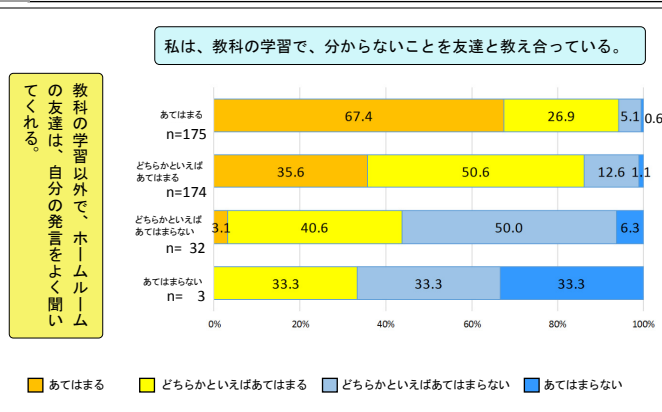
望ましい人間関係を構築している状況に関する質問（17問）

*ここでは、 $r > 0.4$ 、 $p < 0.01$ [r ：相関係数、 p ：有意確率]

このリーフレットでは、やや強い正の相関が見られた質問の主なものを、下のようなグラフで示しています。

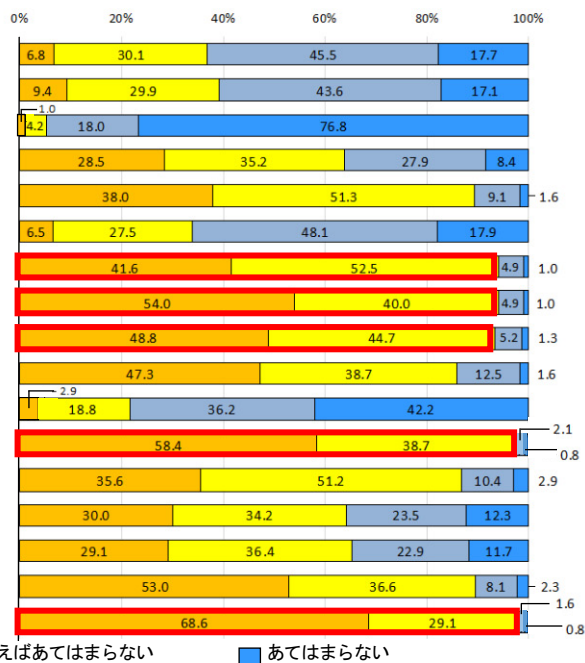
グラフの
見方

「教科の学習以外で、ホームルームの友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。」という質問に「あてはまる」と回答した生徒の67.4%が、「私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。」という質問にも「あてはまる」と回答しています。



「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」(17問)に対する 生徒の回答集計結果

私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
 私は、教科の学習以外のホームルームの話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
 私は、ホームルームで、イライラしてがまんできないときがある。
 私は、みんなの前に出て発表をするとき、とても緊張する。
 私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。
 私は、夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなることがある。
 私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。
 私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
 私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
 私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。
 私は、友達と意見が合わないことがあると、その人と、あまり話したくなくなる。
 私は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。
 私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。
 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、ホームルームの友達に話す。
 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、同じホームルーム以外の友達に話す。
 私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。
 私は、自分が悪いことをしたとき、「ごめんなさい」と言っている。



あてはまる どちらかといえばあてはまる どちらかといえばあてはまらない あてはまらない

『私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。』『私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。』『私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。』『私は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。』『私は、自分が悪いことをしたとき、「ごめんなさい」と言っている。』という質問では、肯定的回答の割合が9割を超えています。一方、『私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。』『私は、教科の学習以外のホームルームの話し合いで、自分の考えを進んで発言している。』という質問では、肯定的回答の割合は4割未満であり、他の質問に比べて低くなっています。

具体的な取組例

相手の話を聞くことの大切さを実感させる

他者との関わりに関する質問

教科の学習以外で、ホームルームの友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。

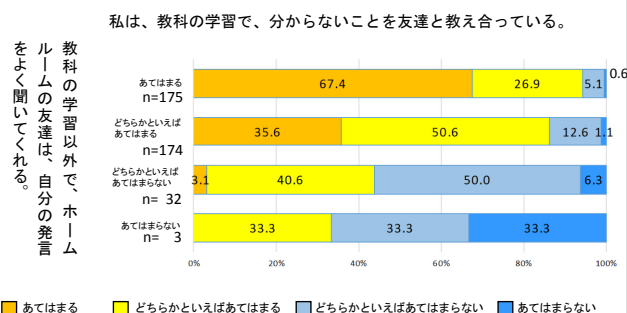
相関あり*

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問

私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。
 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、ホームルームの友達に話す。
 私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。

*ここでは「やや強い正の相関」を指す。

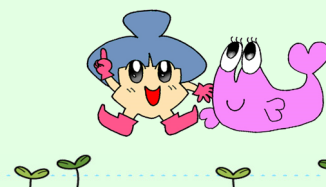
友達によく話を聞いてもらっている生徒は、他者を大切に思う気持ちや、互いに高め合う意識をもって生活しようとする傾向が見られます。



例えば、次のような取組を実践します。

傾聴する態度の育成

ホームルーム活動で、相づちだけで話を聴いたり聴いてもらったりすることを体験させ、傾聴について学ばせます。その後のホームルーム活動において、傾聴する態度を意識して話合いを行う場面を、意図的・計画的に設定します。このような話合いを重ねることで、生徒は受容的な態度で相手の話に耳を傾けることの大切さを理解したり、傾聴する態度を身に付けたりしていくと考えられます。



感謝の気持ちを表現させる

他者との関わりに関する質問

私は、ホームルームの友達から「ありがとう」と言われる。

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問

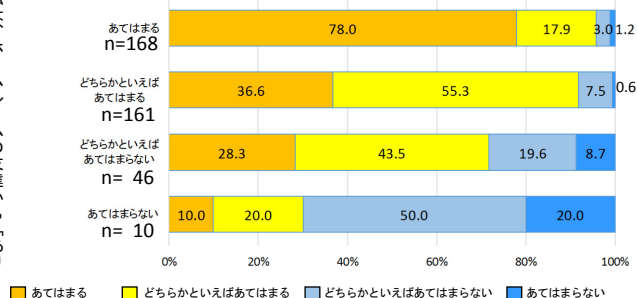
私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。
私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。

相関あり

友達から「ありがとう」と言われている生徒は、他者と積極的に関わろうとする傾向が見られます。

私は、ホームルームの友達から「ありがとう」と言われる。

私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。



例えば、次のような取組を
実践します。

情報モラル教育の場面で

情報モラル教育の中で、SNSでのやり取りについて学習する際に、言われてうれしい言葉について考えさせます。こうした学習を通して、相手を思いやる言葉の大切さに気付くことができます。

養護教諭としての関わり

友人関係の悩みを抱えた生徒に対して養護教諭がかける言葉が、その不安を和らげます。例えば、「ありがとう」の一言で人間関係が好転したエピソードを基に、感謝の思いを表すことの大切さを伝えます。生徒は、話を聞きながら自分自身と向き合うことで、感謝の気持ちを伝える勇気をもてるようになります。

異年齢集団による交流の場面を設定する

他者との関わりに関する質問

生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

望ましい人間関係を構築している状況に関する質問

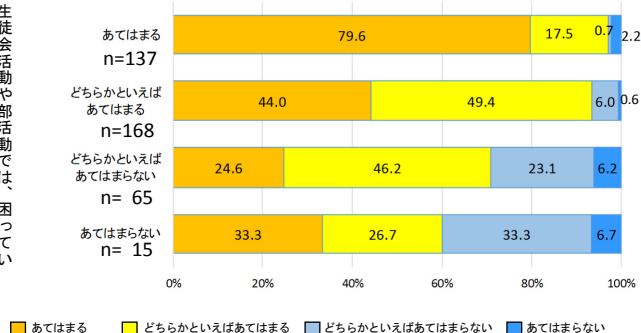
私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。

相関あり

生徒会活動や部活動において、他者の手助けをしている生徒は、友達のがんばりを励みとして、前向きに生活しようとする傾向が見られます。

生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。



例えば、次のような取組を
実践します。

生徒会活動での取組

生徒会活動において、異なる学年の生徒同士が協力できる場面を設定します。生徒会執行部が中心となり地域や校内の清掃活動などを計画する際、生徒会担当教員も適切に関わりながら、異学年集団による交流の目的や留意点を意識させるようにします。

部活動での人間関係づくり

全部員が助け合いながら活動できる雰囲気づくりに努めます。例えば、部活動における上級生と下級生の関係の在り方について話し合う機会を設定します。その際、生徒主体の話し合いとなるように、指導者は必要に応じて関わっていくことが大切です。

別の視点からの取組例

このリーフレットでは、「他者との関わりに関する質問」を基に、望ましい人間関係を育むための取組について考察したことを紹介しています。加えてここでは、2、3ページに掲載した「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」で示した生徒の姿に、直接つながる取組例を紹介します。

「私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。」

ホームルーム活動で話し合いを行う際、建設的な意見を述べるよう伝えます。

「私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。」

教え合ったり他者の意見を聞いたりすることで解決できるように、課題の難易度を十分に検討します。

「私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、ホームルームの友達に話す。」

一人一人のよさや違いを尊重し合う雰囲気づくりに努めます。

「私は、友達のがんばっている姿を見ると、一緒にがんばろうと思う。」

学校行事に向けた話し合いで、ホームルームとしての目標を決めさせ、全員で共有した上で活動に取り組ませます。

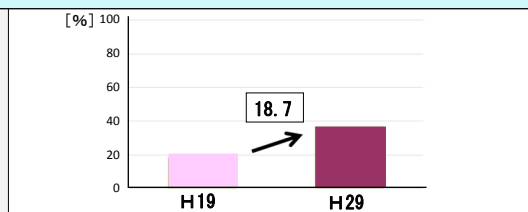
10年前と今回の調査結果の比較

「望ましい人間関係を構築している状況に関する質問」への肯定的回答の割合について、10年前と今回の結果を比較しました。多くの質問で、10年前よりも肯定的回答の割合が伸びましたが、ここでは、有意な差*が見られたもののうち、平均の差が大きかった四つの質問についてグラフで示します。

*独立した2群の平均の差を検定し、その差が明らかであるもの。[$p < 0.01$ p : 有意確率]

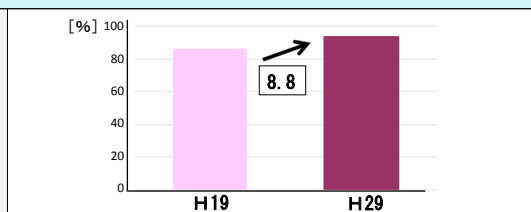
1

私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。



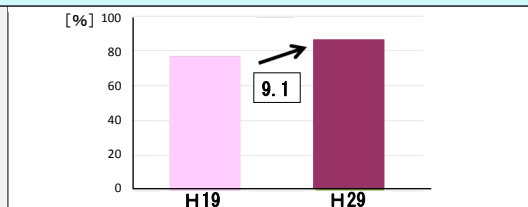
2

私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。



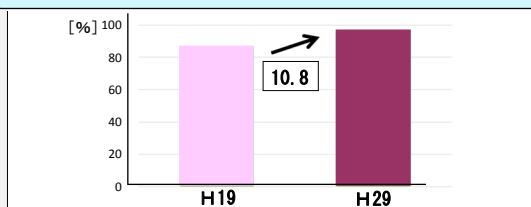
3

私は、教科の学習で、分からないことを友達と教え合っている。



4

私は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。



①の質問は2ページで示したとおり、今回の調査では肯定的回答の割合が4割未満であり、他の質問に比べて低い結果でした。しかし、10年前と比べて18.7ポイント伸びています。①に加えて、②、③の質問に対する回答も伸びました。グループの中で生徒同士で教え合ったり、他者の考えを参考に自分の意見を深めたりする言語活動の充実が図られたことが、このような伸びにつながった要因の一つと考えられます。また④の質問に対する回答も、10.8ポイント伸びています。クラスとして学校行事等の目標を定め、その達成に向けて守るべきことについて話し合う取組の成果もあるのではないのでしょうか。今後も、生徒主体の話し合い活動を充実させていきましょう。

教職員対象の調査結果から

この調査では、教職員にもアンケートを行いました。担任の先生方の回答結果からは、「生徒は、ホームルームの友達の手伝いを、自分からやっている。」という質問と「みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする生徒がいる。」という質問の間にやや強い正の相関が見られました。担任の先生方の回答結果からも、学校で友達のために行動している生徒は、互いに高め合う意識をもって生活しようとする傾向が見られることが分かりました。これまで、生徒が友達のために行動することができるように、様々な取組が行われてきました。今後も継続していきましょう。



栃木県総合教育センター

<問合せ先：研究調査部>

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

E-mail: kenkyu-c@tochigi-edu.ed.jp

Webサイトを御覧ください。

本リーフレット、質問紙、報告書を掲載しています。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_ningenkankei/

VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ